



Joji Shimamoto
Jarvis Earnshaw
Daiho Soga

2024年
7月14日|日|・15日|月|祝|
秋田市文化創造館



光る夜

1.5



写真集『THE SCENE - MOMENT OF TRUTH』 発売記念 全国巡回ツアー in 秋田

展覧会 [入場無料]

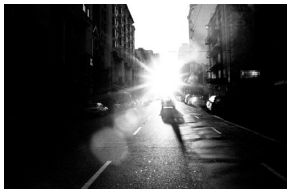
会期／7月14日|日・15日|月|祝|

2階スタジオA2 9:00～18:00 (最終日は16時まで)

Joji Shimamoto

嶋本 丈士

1983年生まれ。千葉県出身。写真家、クリエイティブディレクター、ロマンチスト。OJAI, CALIFORNIAの高校で写真部に入り暗室で青春時代を過ごす。2007年ACADEMY OF ART UNIVERSITY, SAN FRANCISCO, CA写真科卒業。在米中にアメリカで数々の写真展を開催、企画する。2008年に帰国後は新宿のTHE ART COMPLEX CENTER OF TOKYOで大規模な写真展を開催。STUDIOVOICEの別冊として発行された「日本の100人の写真家」にも選ばれ、ラフォーレ原宿やBLUE NOTE TOKYOでの写真展示、BASEMENT GINZAでの個展、ニューヨークで開催されたNEW CITY ART FAIRのメインイメージ写真に使われる等、自身のアート活動も精力的にこなす。2014年麹町で約2週間開催し来場者1万3千人を記録したビルー棟を美術館に委託させたアートイベント#BCTIONを主宰。2018年春、渋谷に新しく誕生したMAGNET BY SHIBUYA109の施設内の壁面をプロデュースした。作品はその場の匂いや音、湿度までも感じさせる。まるでLPレコードの針のノイズのように、安らぎと懐かしさを感じさせてくれる。また一瞬を切り取った写真は、前後のストーリーが映画のように想像できる。観る者の感性が呼び覚まされるような希少なフォトグラファーである。



スペシャル即興ライブ演奏 ※お子様連れ歓迎

会期／7月14日|日・15日|月|祝| (各日サウンドシステムが異なります)

2階スタジオA1、A2 18:00～20:00

Jarvis Earnshaw

アーンショー ジャービス



昭和57年生。幼少期をイギリスと日本で過ごし、若干15歳で36.5cBulletのヴォーカリストとして日本のパンクレーベル、スラムレコードからデビューを果たす。美術学校御茶ノ水文化学院を卒業後、ソロ活動やDragonAshのギターを勤めた後インドでシタールの勉強を経て、2007年にはニューヨークのPRATT Instituteから荣誉賞を受賞している。彼の音楽と写真は世界的に認められ、Fuji Rock Festival'03から2016年にはニューヨークの由緒あるリンカーンセンターでライブを行い、世界各国でレジデンシーやパフォーマンスを展開している。シタール、ギターを操り、オーディオカセットテープを改造した手作りループを活用しながら、彼の多彩で暖かな声はシネマティックな体験だと表されることが多い。時には暴力的なぐらいの衝撃と共に感じられるノスタルジアと緊張感に思い起こされる空間。ソロ活動の他に積極的に様々な分野のアーティストとコラボレーションを心掛けている。トレヴァーダン(Mr. Bungle, Fantômas, Melvins), Merzbow, ウォルターステディンや画家のケニーシャーフ、クルールキース(Ultra Magnetic MCs, Dr. Octagon), ビートニック詩人アンウォルドマン、ローリーゴールドストン(Nirvana)、坂田明、長谷川裕倫(あぶらだこ)、画家の松岡亮、曲芸師のアメijingクエイミー、THABLU HERB、山口富士夫(村八分、裸のラリーズ)、山本精一(BOREDOMS)、Masuko Shinji (DMBQ)、クリスコルサーノ(Björk)、ライヤン ソイヤー(At the Drive-In)、白石民生(不失者)、ルークスチュアート(Irreversible Entanglements)、ジェイミーブランチ等とのライブコラボレーションを行い、Dj Quietstorm、YoshitakeEXPEのアルバム参加、BCスタジオの伝説的プロデューサー、マーチンピーシーやシアトルグランジ先駆者プロデューサージャックエンディーノ(Skin Yard)、スティーブアルビンとのコラボ、ナショナルオーロッドパンソサエターの短編映画"Shorebirds Flock to the Yellow Sea"のサウンドトラック提供や、セイラハフ(Bastard Noise/Detestation)率いるパンクバンドQUESTIONでベースを担当、ジョンレノンをも魅了した歴史的70年代サイケデリック劇団ザコケッツのルミミサブの音楽プロデュースも手掛けている。

Daiho Soga

曾我 大穂 (仕立て屋のサーカス主宰)



音楽家。多楽器奏者。舞台演出家。20歳の頃、路上でのハーモニカ演奏をきっかけに音楽を始める。ハーモニカ、フルート、カヴァキーニョ、鍵盤楽器、テーブルレコーダ、トイ楽器、スティールパンほか、音の出る様々なものを使った即興演奏を得意とする。'99年沖縄にて、映像などを使い1本の映画のような物語性のあるライブを展開し続けるシネマティックバンド「CINEMA dub MONKS」を結成、日本各地はもとよりバルセロナを拠点に活動するなど、欧州、ニューヨークなど世界中で活動。'03年英国のレーベルSoftlyよりリリースした1stアルバムは、英国BBCラジオの「Worldwide Track Of The Year 2003」にノミネート。また、ハナレグミ、二階堂和美、持田香織(Every Little Thing)、原田郁子(クラムボン)、照井利幸(ex. BLANKEY JET CITY)、オオヤユスケ(Polaris)、キセル、mama! milk、グットラックヘイワなど、多岐に渡るライブサポートやレコーディングメンバーとしての活動でも知られている。その他、テレビCM音楽(富士ゼロックス、洋服の青山、ライフカード、コカ・コーラ社、他...)の音楽制作や演奏、美術家、映画、ダンサー、演劇、写真家など様々なジャンルとのコラボレーションも数多い。'14年からは舞台芸術グループ「仕立て屋のサーカス」を主宰、基本設計を手がけるとともに、全公演で演出・出演を行っている。同グループは、金沢21世紀美術館、南青山スパイラルホール、京都芸術センター、KAAT(神奈川芸術劇場)など国内様々な劇場ホールにて公演を展開しており、'17年にはスペインの国際芸術センターから招聘されて2週間に渡り行った全公演をソールドアウトさせた。その後の海外公演でも、フランス、スペイン、インドネシアの各会場で6,000人を動員。'20年に、書籍「仕立て屋のサーカス」を刊行。「アートの社会実装」を掲げ、歴史学者、文化人類学者、映画監督、地方自治体、出版社、美術館といった多彩なパートナーと共に作り上げるそのパフォーマンスの舞台は、劇場を飛び越え、教育分野や地域コミュニティへと広がっている。近年は即興のソロ公演、ナチュラルカラミティ(森後二との「DAMO」、ラッパードボ田との「a-ho-bo」)の活動も行っている。2021年Herbert Hunger(名義でソロアルバム「Sketches of Stain」)をリリース。

音響/nost(OVO)、グノース鳥 PA/エンマくん 装飾/空の森研究所、フィール粘菌事務所

光る夜とは、音と光による「都市の浄化」がはじまりでした。マジカルババプレゼンツ、2022年9月7日(水)、エリアなかいかいのにぎわい広場で行われました。夕暮れからYoshitakeEXPEさんが演奏したり、空の森研究所さんが【森を「」る。】を上映したり、飛び入り参加があったりするフリーパーティーです。仲間による搬入パフォーマンス、厨房ゾーンは「肉まん＆スープ!」空の木GardenとjoliBakeshop+キトラ、DRINKBARは川反ルーム菓、コーヒーは喫茶チンパンジー、夜のハーブティーはブラーナさん。キッチンカーピザはCOCONIWA×マジカルババ! 酒と洋菓子などは田名部洋菓子店(青森より)。物販は∞Lovejoygarden∞×Harmonize、ワークショップ・展示・パフォーマンスなど「光のランプシェードづくり」をつきのわさん、光のモビールづくりヒンメリWSは、たそがれの麦藁(ちゃんすず、tauko、十まいまいちゃん)、精油調合のワークショップはhirakuさん。光の灯具はPACIFICMANさん。椅子と音響機材のゾーンではサウンドフィクスインスタレーションISUKA×アラナミ×TORINOS製作所。会場装飾は光のオブジェ、中川舞×マジカルババ×粘菌事務所、草木染め、太陽光と風のアーキテクトは藤田美帆さん×空の森研究所×保坂剛志さん。火の儀式は新炎+キエン-の皆様。シアターエリアはnost(OVO)×空の森研究所。椿キャンドル、進藤電気設計、書肆よし、tinyhouse回-kai-、CreativePegWorksの皆様が協力してくれました。やっさんの撮影写真、みんなよるこんでいましたね。そして今回、光る夜1.5として新しい仲間を迎え、vol.2に向けての準備がはじまることとなります!

光る夜 1.5

2024年

7月14日|日・15日|月|祝|

秋田市文化創造館

会費 ※18歳以下無料

7月14日|日|

[予約制] 3,300円(食事付き)

席に限りがありますのでお早目のご予約をお願いします

7月15日|月|祝|

[自由料金制] ※予約不要

会場で配る封筒にお気持ちををお願いします

ご予約先

インスタグラムDMで

一炊 @issui_catering

民芸パパパー @mingei.papaya

Eメールで

kashishokudou@yahoo.co.jp

お問い合わせ先

佐藤画廊 TEL:080-3328-3106